

【必携・衛生試験法】

(2011年3月1日発行 第1版第1刷)

正誤表

このたびは、必携・衛生試験法をお買い求めいただきましてありがとうございます。(2011年3月1日発行第1版第1刷、)2012年1月25日(第2刷)をご購入いただきました皆様へ。

下記に修正前(第1刷)と修正後の相違点を一覧表として掲載いたしますのでご参照ください(一部2刷の修正点も含む)。

ご不便をお掛けいたしましたこと、心よりお詫び申し上げます。

ページ, 行	第1刷 誤	第2刷 正(増刷時訂正済)
196頁, 左側 23) 水銀 上から24行目	(1) 還元気化/原子吸光度法による定量 水銀イオン(Hg ²⁺)を塩化スズ(Ⅰ)で還元し、それにより気化した水銀を原子吸光装置に導入し、吸光度を測定する。	(1) 還元気化/原子吸光度法による定量 水銀イオン(Hg ²⁺)を塩化スズ(Ⅱ)で還元し、それにより気化した水銀を原子吸光装置に導入し、吸光度を測定する。
209頁, 右側 上 から8行目 (2) ウィンクラー法¹⁾ 【解説】	$\text{Mn(OH)}_2 + \text{O} \rightarrow \text{H}_2\text{MnO}_3$ 次にH ₂ SO ₄ を加えれば, $\text{H}_2\text{MnO}_3 + 2\text{KI} + 2\text{H}_2\text{SO}_4 \rightarrow \text{MnSO}_4 + \text{K}_2\text{SO}_4 + \text{H}_2\text{O} + \text{I}_2$	$\text{Mn(OH)}_2 + \text{O} \rightarrow \text{H}_2\text{MnO}_3$ 次にH ₂ SO ₄ を加えれば, $\text{H}_2\text{MnO}_3 + 2\text{KI} + 2\text{H}_2\text{SO}_4 \rightarrow \text{MnSO}_4 + \text{K}_2\text{SO}_4 + 3\text{H}_2\text{O} + \text{I}_2$
218頁, 左側 上か ら2行目	(2)-2 酸性高温過マンガン酸法による定量¹⁾ 本法はAgNO ₃ を用いCl ⁻ の妨害を防ぐ方法である。	(2)-2 酸性高温過マンガン酸法による定量¹⁾ 本法はAgNO ₃ を用いCl ⁻ の妨害を防ぐ方法である。
265頁, 右側 下か ら12行。	NO ₂ ⁻ の変換率	NO ₂ の 転換率

【必携・衛生試験法】2刷訂正

(2012年1月25日発行 第1版第2刷)

ページ, 行	第2刷 誤	第2刷 正
243 頁, 右側 最終行	t と $(t - t')$ で求めるようになっている。	t' と $(t - t')$ で求めるようになっている。
239 頁, 上から 9~8 行目	なおアスマン通風乾湿計乾湿表(表 4.4.2-2)を用いれば, 湿球示度と, 乾球と湿球の温度差から	なおアスマン通風乾湿計乾湿表(表 4.4.2-2)を用いれば, 乾球示度と, 乾球と湿球の温度差から,
241 頁, 表 2-10 (1) 242 頁, 表 2-10 (2) アスマン通風乾湿 計用湿度表 左上覧内	湿球	乾球 $t/^\circ\text{C}$
244 頁, 表 2-11 (1) アウグスト乾湿計 湿度表。左上覧内	t'	t
245 頁, 表 2-11 (2) アウグスト乾湿計 湿度表 (氷点下)。 左上覧内	t'	t

平成 24 年 11 月
金原出版株式会社